



きょだいじしん 巨大地震ってなあに

マグニチュード^{いじょう} 8以上の地震

みなさんは、地震^{じしん}が起こったときの報道^{ほうどう}で、マグニチュード5.3の地震^{じしん}とか、マグニチュード6.7の地震^{じしん}ということばを、聞いたことがあると思います。地震^{じしん}そのものの、エネルギー^{おほ}の大きさを表^{あらわ}す単位^{たんい}を、マグニチュードといひます。

日本では、マグニチュード^{いじょう} 3以上5未満^{みまん}を小地震^{しょうじしん}、5以上7未満^{いじょう}を中地震^{ちゅうじしん}、7以上^{いじょう}を大地震^{だいじしん}とよんでいます。大地震^{だいじしん}の中^{なか}でも、特に^{とく}大きい、マグニチュード^{いじょう} 8以上の地震^{じしん}を、巨大地震^{きょだいじしん}とよんでいます。

マグニチュードの数字^{すうじ}が2倍^{ばい}になれば、地震^{じしん}のエネルギー^{ばい}が2倍^{ばい}になる、ということではありません。なんとおどろくことに、マグニチュードが1増^ふえると、地震^{じしん}のエネルギー^{やく}が約32倍^{ばい}になり、マグニチュードが2増^ふえると、 $32 \times 32 =$ 約1000で、エネルギー^{やく}は約1000倍^{ばい}になります。マグニチュード^{いじょう} 8以上の巨大地震^{きょだいじしん}が、いかに大きな地震^{おほ}であるかがわかるでしょう。

かんとうだいじしん かんとうだいしんさい 関東大地震（関東大震災）は、マグニチュード7.9

1923年^{ねん} 9月^{がつ}に起こり、大きな被害^{おほ}を出した関東大地震^{かんとうだいじしん}（関東大震災^{かんとうだいしんさい}）は、マグニチュード7.9です。1995年^{ねん}に起こり、やはり、大きな被害^{おほ}を出した、兵庫県南部地震^{ひょうごけんなんぶじしん}（阪神・淡路大震災^{あわじだいしんさい}）は、マグニチュード7.2です。

1854年^{ねん} 12月^{がつ}に起こった、安政東海地震^{あんせいとうかいじしん}、安政南海地震^{あんせいなんかいじしん}のときは、マグニチュード8.4です。

マグニチュードの大きい地震^{おほ}でも、建物^{たても}や人口^{じんこう}の少ない所^{すく}では、それほど大きな被害^{おほ}が出ないことがあります。（監修・国司 真）

